風土を温める

シリーズ　高山の文化財⑭

【国指定重要文化財】

松本家住宅

高山陣屋の前、中橋のたもとにある日枝神社のお旅所から川原町通りを南に向かって進むと、中橋周辺の喧騒とは打って変わって、住宅が建ち並ぶ静かな地域になります。この通り沿いの所々には古い町家が見られますが、その中でもとりわけ古くて立派な建物が「松本家住宅」です。

この住宅は、高山の町のほとんどを焼き尽くした明治八年の大火をまぬがれ、高山の町家としては今にその姿をとどめる唯一のもので、市内の町家の中では最も古く、改造もあまりされていない建物です。

尾張街道沿いに建つ松本家

開放的な内部

‡

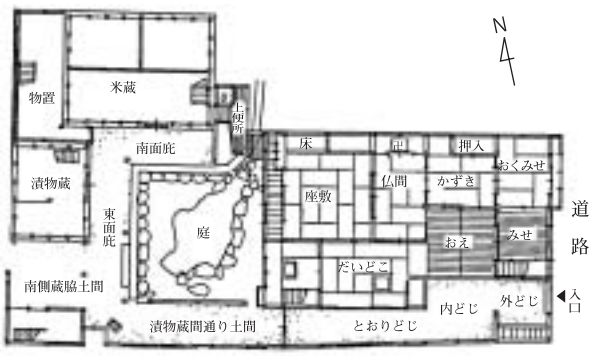
主屋は屋根を二方向に葺き降ろす「切妻造り」で、二階の天井が低い中二階建て、前側には「むくり破風」のついた小庇があり、のれんを掛けるのに使われました。また、二階の連子窓、一階の出格子など、高山の町家の典型的な姿を示しています。

大戸から内部に入ると「どじ」と呼ばれる土間があります。土間はこうした町家にはよく見られるもので、建物の前側から後ろ側まで一続きに通っています。この「どじ」に沿う形で、「みせ」「おえ」「だいどこ」といわれる部屋が並んでいます。それぞれの部屋の向こう側には「おくみせ」「かずき」「仏間」「座敷」があります。二階には広い座敷や茶室も設けられています。このように部屋がたくさんあり、二列に並ぶ間取りを持つ家は、高山の商家の中でもかなり豊かなものだけでした。

「どじ」や「だいどこ」には天井がなく、吹き抜けになっているため、たいへん開放的な印象を受けます。この吹き抜けの空間では、梁や桁、束柱といった建物の構造を支える部材が縦横に組まれているようすを見ることができます。この梁組は、高山の町家では普通に見られるものですが、同様に重要文化財になっている日下部家住宅（大新町一丁目）ほどには太い木材を使わず、また、吉島家住宅（同）に比べると梁や柱の数が多くありません。松本家住宅の梁組はこの二軒の家より簡素だと言えますが、この点が古い町家であることをよく表しています。主屋の裏には中庭があり、その奥には土蔵二棟が並んで建っています。

‡

この家はもともと、薬種商原三右衛門の住居兼商家でしたが、明治四十五年、煙草製造卸や金貸業を営んでいた松本吉助の所有になりました。以来、松本氏が住み続けておられましたが、昭和五十九年に建物と敷地の一部が高山市に寄贈されました。その後、整備工事を行い、現在は高山市教育委員会が管理し、一般に公開しています。江戸時代の高山の町家に触れることができる松本家住宅へぜひお出かけください。



1階平面図

所在地　上川原町一二五番地

建物　主屋一棟、米蔵一棟、漬物蔵一棟

公開　土・日・祝日の午前九時～午後四時三十分（十二月二十八日～一月四日は休館）

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています
印刷／有限会社 大六印刷